

県外派遣報告書

審判員名	若林 哲		所属	U15	
大会名	第78回国民スポーツ大会関東ブロック大会				
期間	令和6年8月24日(土)～25日(日)				
会場	富士北麓公園体育館、鐘山総合体育館				
スケジュール					
期日	内容		場所		
8月20日(火)	審判会議		オンライン		
8月24日(土)	少年女子1回戦、敗者戦		鐘山総合体育館		
8月25日(日)	少年男子決勝		富士北麓公園体育館		
会議 講義 内容					
<p>審判会議では山梨県バスケットボール協会専務理事の仙洞田様、同県審判委員長の佐田様、関東バスケットボール協会審判委員長の平原様よりご挨拶がありました。平原様からは、性別もカテゴリも異なる大会なので、各審判員がクルーチーフメンタリティを持ってゲームをコントロールして欲しいとのお話がありました。</p> <p>その後、4名の指名審判員の方々からレクチャーがありました。「プレゼンテーション」がテーマになっており、佐藤太様からは、立ち姿や身だしなみ(髪型なども含む)も含めてプレゼンテーションである。判定した内容に説得力を持たせるためにもプレゼンテーションは重要である、とのお話がありました。</p> <p>千葉美幸様からは、メロビアンの方則について話がありました。第一印象は3～5秒で決まり、55%が視覚情報(見た目、表情、ジェスチャー)で決まる。プレゼンテーションはすぐに治せる部分もあるので改善図って欲しい、との話がありました。</p> <p>内野翔太様からは、自分自身を客観視したうえでプレゼンテーションを工夫するべき。自分が周りからどう思われているのか(印象・雰囲気)、どう見えているのか(身長・体格)を考察することは重要であり、客観的な視点をチーム・選手→観客→ゲーム全体というように広げていくことでゲームコントロールの質が高まる、という話がありました。</p> <p>渡邊整様からは前述3名の内容を踏まえた上で、①自分のライセンスに合った判定をすること、②積極的に判定をすること、③試合を生で観戦することについてお話がありました。特に③について、映像からは感じ取れない選手の雰囲気やコミュニケーションの取り方などを積極的に学んで欲しい、とのことでした。</p>					
実技					
担当試合	期日	8月24日(土)	男子	女子	少年女子1回戦
	対戦カード	群馬県	VS	山梨県	CC U1 U2
	相手審判	CC:藤本梨紗氏(神奈川県) U2:根反祥恵氏(茨城県)			
ミーティング内容			主任 雨宮 恵氏(山梨県)		
【審判主任より】					
CCを中心にゲーム序盤のテンポセットがとても良かった。プライマリーのレフェリーがコールできるとベター。山梨県のベンチコントロールもコミュニケーションで対応しており、安心感があった。					
【自己反省】					
ゲーム序盤のテンポセットに乗り遅れてしまった。このゲームをどのように運営したいのかという方向性と試合中の気付きにかけていた。					
担当試合	期日	8月24日(土)	男子	女子	少年女子敗者戦
	対戦カード	神奈川県	VS	栃木県	CC U1 U2
	相手審判	CC:手塚清孝氏(山梨県) U2:中嶋 氏(山梨県)			
ミーティング内容			主任 梶 崇司氏(栃木県)		
【審判主任より】					
コンスタントにグッドコールが積み重なり、ゲームが非常にスムーズに進んだ。アウトオブバウンズの協力について、短時間でコミュニケーションを取るべき。時間がかかるとベンチにとっては不感傷につながる。Cポジションからミドルラインを超えてコールするプレーを吟味するべき。余程のことがない限り、T&Lに判定を委ねた方がいい。					
【自己反省】					
自分の中ではシンプルにコールできていた。ファウルバランスも気にしていたが、気にするあまり、無理に吹いてしまうケースがあった。					
担当試合	期日	8月25日(日)	男子	女子	少年男子決勝
	対戦カード	東京都	VS	茨城県	CC U1 U2
	相手審判	CC:佐田幸一氏(山梨県) U2:安藤俊明氏(千葉県)			
ミーティング内容			主任 茂泉圭治氏(神奈川県)		
【審判主任より】					
ゲーム自体は非常に面白いゲーム。ダイナミックなプレーを引き出していた印象。前半と後半のプレーの変化にもっと対応できるとよい。ちょっとした体の使い方の変化に気づき、コールしていくことでもっとスムーズにゲームを進めることができる。ダブルコールが多かった。ダブルコールが悪いわけではないが、セカンダリーが少し遅らせてコールする意識があれば、鳴らさずにシングルコールにできる。					
【自己反省】					
発見と分析に時間を要してしまったせいで、コールすることができないケースが続いてしまった。結果的にはコールすることで同じようなケースは解消されたが、もっと早くコールしてメッセージを伝えるべきだった。					
全体の感想					
<p>まず初めに開催県である山梨県バスケットボール協会の皆様、そして今大会へ派遣してくださった埼玉県バスケットボール協会に感謝申し上げます。今回は3試合を担当させていただきました。</p> <p>普段担当しているカテゴリよりも年齢が上のカテゴリということで、色々考えさせられる場面が多くありました。その中で特に感じたのは、自分が担当するゲームがどうなりたいのか、そのためにどのようなプレーに奮を入れてメッセージを伝えていくか、というビジョンが自分には乏しいということです。起きた事案に関して判定(コール)するという短期的な判定ではなく、自分が描くゲーム像に近づけていくために判定(コール)したり、コミュニケーションを取っていくことが必要だと思いました。U18以上のカテゴリでは選手・ベンチとコミュニケーションを取ることもより重要になってきます。まだまだコミュニケーションに苦手意識があるので、今後もチャレンジしていきたいと思っております。</p> <p>以上で派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。</p>					

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。